

各報道機関文教担当記者 殿

金沢大学の最先端の研究成果を紹介！ 3/6（木）第10回新学術創成研究機構シンポジウム

このたび、金沢大学新学術創成研究機構は、設立10年を迎えるにあたり、下記のとおりシンポジウムを開催します。

本機構は、本学に優位性のある研究の更なる強化、学問分野融合型研究の一層の進展および国際頭脳循環の継続的拡充を一体的に推し進めることにより、革新的な研究成果を生み出し、新しい学問分野・学問領域の創成につながる学際的な研究を推進することを目的としています。

このシンポジウムでは、これまでの10年間で研究した、がん、再生可能エネルギー、文化遺産などの学問分野を超えた革新的な研究成果を発表します。

つきましては、事前報道および当日の取材をよろしくお願ひします。

記

第10回新学術創成研究機構シンポジウム

日 時：令和7年3月6日（木）13時00分～16時30分

場 所：ホテル日航金沢 鶴の間（石川県金沢市本町2-15-1）

対 象：どなたでも

内 容：6名の研究ユニットリーダーによる講演を行います。また、会場においてポスターセッションを行い、金沢大学の研究力強化の中心的役割を担う10名の研究ユニットリーダーが最先端の研究内容をわかりやすく紹介します。

※詳細は、別紙チラシをご参照ください。

<お問い合わせ先>

金沢大学研究推進部研究支援課 入口

Tel：076-264-6140

Mail：rinfi@adm.kanazawa-u.ac.jp

第10回

2025
3.6 [木]
13:00-16:30

会場
ホテル日航金沢 鶴の間
(石川県金沢市本町 2-15-1)

シンポジウム、情報交換会のご参加は、申込フォームより
事前申込をお願いします。どなたでもご参加いただけます。

新学術創成研究機構 シンポジウム

13:00
開会挨拶 金沢大学長 和田 隆志

13:10
「遺伝情報を読み取る仕組みから、
がんの悪性化を紐解く」
鈴木 健之 教授
真理探究研究コアがん分子標的探索応用ユニット

13:40
「先進がんモデルが解明する
治療抵抗性がん細胞の仕組みと
標的治療」
後藤 典子 教授
次世代医療創成研究コア先進がんモデル研究ユニット

14:10
「RB1 の陰陽を標的とする
新規がん治療法開発」
高橋 智聡 教授
次世代医療創成研究コアがん幹細胞研究ユニット

14:40 休憩 (10分)

14:50
「再生可能エネルギーとしての
ペロブスカイト太陽電池の
可能性」
當摩 哲也 教授
グリーンイノベーション研究コア再生可能エネルギーユニット

15:20
「がんセラノスティクスを
目的とした薬剤開発研究」
小川 数馬 教授
次世代医療創成研究コア創薬分子プローブ研究ユニット

15:50
「文化遺産を考究し、
その価値を豊かにする
—考古学と建築史の研究から」
河合 望 教授
真理探究研究コア文化遺産国際協力ネットワークユニット

16:20
閉会挨拶 新学術創成研究機構長 坂本 二郎

17:00 情報交換会

事前参加申込サイト

下記の URL または
QR コードからサイトへ移動し、
事前参加登録をお申込みください。

<https://ws.formzu.net/dist/S82865089/>



- [主催] 金沢大学新学術創成研究機構
- [共催] 金沢大学ライフサイエンス研究戦略委員会、金沢大学がん進展制御研究所
金沢大学ナノ生命科学研究所、金沢大学ナノマテリアル研究所
金沢大学設計製造技術研究所、金沢大学高度モビリティ研究所
金沢大学古代文明・文化資源学研究所、金沢大学産学連携協力会
学際領域展開ハブ「健康寿命科学」プロジェクト

[問い合わせ先] 金沢大学研究推進部研究支援課
TEL: 076-264-5296
E-mail: rinfi@adm.kanazawa-u.ac.jp



新学術創成研究機構 金沢大学 新学術創成研究機構は、先端かつ独創的な研究を推進するため、学際的な連携と新たな学術領域の創出を目的として2015年4月に設立されました。これまで、ナノテクノロジー、医科学、環境科学、文化資源学など多様な分野で世界水準の研究成果を生み出し国内外の研究機関との協力体制を強化してきました。その成果は、2017年世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)採択の「ナノ生命科学研究所」の設置、2018年「ナノマテリアル研究所」、2019年「設計製造技術研究所」、2021年「高度モビリティ研究所」、2022年「古代文明・文化資源学研究所」の設置において重要な役割を果たし、それぞれの研究所において活躍する研究者を輩出しています。



【講師の紹介】



鈴木健之教授は、がん進展制御研究所の所長として、基礎研究と臨床研究の一体的な推進によるがんの克服を目指しています。特に、遺伝情報の発現様式を司るエピゲノム調節と発現された mRNA の制御に注目して、がんの悪性進展の分子メカニズムの解明を進めています。転移や薬剤耐性など悪性進展を阻止するための新たな分子標的を同定し、臨床応用を視野に入れた次世代の治療戦略の構築に取り組んでいます。



後藤典子教授は、金沢大学医学部を卒業し、東京大学で博士号を取得後、ニューヨーク大学医学部での研究経験を持ちます。現在、がん幹細胞や微小環境の解明に注力し、令和5年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。特に、乳がんや神経膠腫におけるがん幹細胞の特性を解して標的治療の可能性を探索し、がん細胞のストレス応答メカニズムを利用した新規治療法の開発にも成功しています。



高橋智聡教授は、がんの悪性化に深く関わる「RB1 遺伝子」の働きに注目し、その異常が治療にどう影響するかを解明した第一人者です。この成果により、患者さんごとに最適な治療法を選べる可能性が広がりました。これまで治療が難しかったタイプのがんにも効果が期待できる新たな薬の可能性を切り拓き、より多くの患者さんが希望を持てる未来を目指しています。がん医療の進化をけん引する研究者の一人です。



當摩哲也教授は、環境に優しい次世代の太陽電池である有機薄膜太陽電池やペロブスカイト太陽電池の研究に注力しています。特に、分子配向制御や塗布成膜技術の開発を通じて、これらの太陽電池の高効率化と長寿命化を追求しています。また、企業との共同研究により、ペロブスカイト太陽電池の量産技術の開発にも取り組んでいます。再生可能エネルギーの可能性を広げる最前線で活躍する注目の研究者です。



小川数馬教授は、放射性薬品科学や核医学の専門家として、がんの診断と治療を一体化した「ラジオセラノスティクス」の研究を推進しています。放射性化合物を用いてがん細胞を正確に検出し同時に治療する技術の開発を行い、患者さんの負担を軽減する新たな医療手法の実現に貢献しています。アルファ線放出核種アスタチン-211を用いた新たながん治療薬の開発に成功するなど、その業績は高く評価されています。



河合望教授は、エジプト学と考古学の専門家で、古代文明の研究とその文化資源の保護・活用に大きく貢献しています。ジョーンズ・ホプキンス大学で学位取得し、エジプト・サッカラ遺跡の発掘調査や、カイロ・エジプト博物館でのツタンカーメン王墓出土品の研究など、古代エジプト新王国時代の歴史と文化の解明では、世界的な成果を上げています。金沢大学 古代文明・文化資源学研究所の所長としても活躍しています。

第10回新学術創成研究機構シンポジウム

日時：2025年3月6日(木) 13:00~16:30 会場：ホテル日航金沢 鶴の間

※シンポジウム後の情報交換会では、他の研究ユニットのポスター展示もご覧になれます。